



▼今月の郷土の小ばなしと一冊

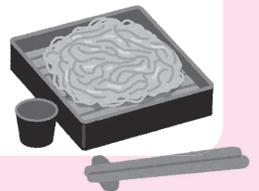
【小諸と蕎麦】

蕎麦は、信州名物の一つです。冷涼な気候や火山灰地などのやせた土地でも良く育ち、古くから救荒作物としても栽培されてきました。小諸でも、古くから「蕎麦焼餅」や「そばがき」など様々な調理法で食されてきました。

江戸時代に小諸領八満の名主だった小林葛古(くずふる)は著書『きりもぐさ』で、「主食は米が第一なのに、近頃は、そば切りを賞味する。(中略)今は黒粉でさえもそば切りに使い、無駄にしない。文化8、9年(1811～1812)頃より、これまでご馳走だったうどんや煮掛けではなく、婚礼などにも、縁の長く続くように蕎麦をあげますなどという、酒の後へはそば切りを出すのがほとんどである」と書いています。

島崎藤村も『小諸のおもひで』の中で、「小諸あたりで、何か祝いでもある時の馳走とは言えば、酒の後で客に蕎麦をもてなす。」と書いていて、「蕎麦でも良く出来ようという地方は、その一面に於いて地味のそれほど肥えて居ないということの證據(しょうこ)にもなる。(中略)そういう土地にあっては、人は激しく自然と戦わねばならない。そこにはまた非常に勤勉な人達が住んで居る。男でも女でも激しい苦勞に慣らされて居た。」と、蕎麦から浅間山麓の厳しい環境に暮らす人々へ想いを寄せています。現代でも、お祝いやお酒の後に手打ち蕎麦を食べる習慣が残っています。

【参考文献】『きりもぐさ』(小林葛古/著 翠川渡/校注)  
『藤村全集 第13巻』(島崎藤村/著 筑摩書房 2001)



▼工作イベント特集!

令和元年から始まった工作イベントも3年目に!  
コロナ禍で中々開催出来なかった時期もありましたが、無事7回目まで終える事ができました。工作イベントでどんなものを作ったかをご紹介します♪

【第1回】2019/6/16

「親子でドキドキアニマルタワー」

【第2回】2019/7/13

「プラバンで太古のアイドル  
土偶キーホルダーを作ろう!」

【第3回】2019/10/6

「読書の秋・本を食べよう  
和綴じ読書手帳作り」

【第4回】2019/12/21

「手作りお正月で年を越そう  
ごぼうじめ作り」

【第5回】2020/2/11

「英字新聞でバッグを  
作って本を借りよう」

【第6回】2020/9/12

「宇宙で運動会」

【第7回】2020/11/14

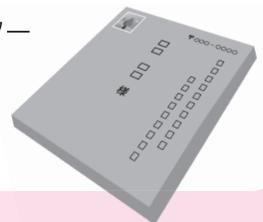
「和綴じの  
読書手帳を作ろう」

工作イベントはこれからも  
開催予定です!  
是非ご参加下さい♪

▼急な休館時の予約本受け取りについて

新年早々やむをえず急な臨時休館となってしまいましたが、利用していただいている皆様には、ご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。まだ予断を許さない状況が続くと思われます。休館中予約をいただいた本に関しましては、レターパック等を活用し自宅に本をお届けしています。

図書館ホームページのインターネット利用者サービスをご利用ください。詳しくは図書館職員にお問い合わせください。



▼アンケート結果報告

11月に実施したアンケートの結果が出ました。今回のアンケートでは、72%の方が「図書館に満足している」という結果になりました。詳細は、ひだまりのひろばに掲示中です。ご協力ありがとうございました。

満足度は去年と  
ほぼ同じ数値でした。  
来年はもっと高くなる  
ように頑張ります!



《実施したアンケートについて》

【期間】2020/11/1～11/30 【対象】図書館利用者  
【回答数】280人(大人179人・子ども99人)